



SRX1500 ファイアウォール

分散型エンタープライズ向け次世代ファイアウォール

製品概要

SRX1500 は、優れた保護、パフォーマンス、拡張性、可用性、およびセキュリティサービス統合を提供する**次世代ファイアウォール**サービスおよびセキュリティサービスゲートウェイです。ポート密度、高性能セキュリティサービスアーキテクチャ、および単一のプラットフォームでのネットワークとセキュリティのシームレスな統合のために設計された SRX1500 は、企業キャンパス、地域本部またはクラウドベースのセキュリティソリューションにおいて、アプリケーションの可視化と制御、侵入防御、**高度な脅威保護**に重点を置いたクライアント保護に最適です。[Junos OS](#) を搭載した SRX1500 は、業界をリードするオペレーティングシステムであり、世界最大かつ最もミッションクリティカルなエンタープライズネットワークをセキュアに保ちます。

製品説明

Juniper Networks® SRX1500 は、キャンパス、および地域本社、および大規模な支社/拠点オフィスのミッションクリティカルなネットワークを保護する高性能次世代ファイアウォールおよびセキュリティサービスゲートウェイです。SRX1500 は、クラスの最高のセキュリティ、脅威検出、および緩和機能を提供し、キャリアクラスのルーティングと豊富な機能を備えたスイッチングが単一のプラットフォームに統合されています。

SRX1500 は、クラウド対応型エンタープライズ ネットワークの刻一刻と変化するニーズに対応できる次世代のセキュリティソリューションです。SRX1500 は、エンタープライズキャンパスにおける新しいサービスの展開、クラウドへの接続、業界標準への準拠、運用効率の向上など、企業のビジネス目標の実現をサポートするとともに、拡張性と管理性に優れたセキュアな接続性、高度な脅威検出や緩和機能を提供します。

SRX1500 は、次世代ファイアウォールとして重要な企業資産を保護し、クラウドベースのセキュリティソリューションにおけるポリシー適用ポイントとして機能し、アプリケーションの可視性と制御を提供し、ユーザーとアプリケーションエクスペリエンスを向上させます。

SRX1500 のハードウェアおよびソフトウェアアーキテクチャにより、小さな 1 U フォームファクタで大幅なパフォーマンス向上が得られます。SRX1500 ハードウェアで重要なのは、セキュリティフローアクセラレータ、プログラム可能な高速レイヤー 4 ファイアウォールチップ、およびアプリケーションの可視性、侵入防御、脅威緩和機能などの高度なセキュリティサービス向けの堅牢な x86 ベースのセキュリティコンピューティングエンジンです。SRX1500 ソフトウェアアーキテクチャは、これらのプログラム可能なハードウェアコンポーネントと仮想化を活用して、高速ファイアウォールのパフォーマンス、アプリケーションの可視性、および侵入防御を提供し、同時に総所有コスト (TCO) を削減します。

SRX1500 は 10GbE ネットワーク環境を保護することを目的に構築されており、多様なセキュリティ サービスとネットワーク機能を、可用性の高い 1 つのアプライアンスに統合しました。エンタープライズキャンパス、地域本社、および大規模な支社/拠点の導入において、最大 9.2Gbps のファイアウォールパフォーマンス、3.3Gbps の侵入防御、および 4.5Gbps の IPsec VPN をサポートします。

SRX1500 の特長

SRX1500 は、次世代ファイアウォール機能をフル装備しており、クラス最高のアプリケーション、コンテンツ、脅威の分類と SD-WAN、ローカルスイッチング、容易なポリシー管理を組み合わせた統合ソリューションで、ネットワークの安全性を確保します。高度なアプリケーション識別と分類化により、ネットワーク上の可視性、実施、制御、および保護を、場所やデバイスに関係なくユーザーに結びつけて向上させます。アプリケーションの量や使用状況の詳細な分析と、動的なアプリケーション名やグループ名に基づいてトラフィックを許可または拒否するきめ細かいアプリケーション制御ポリシー、アプリケーション情報やコンテキストに基づいたトラフィックの優先順位付けを提供することで、従来のネットワーク、クラウドネットワーク、およびハイブリッド IT ネットワークの複雑さを軽減します。

SRX1500 ファイアウォールは、境界防御とセグメンテーションを組み合わせて横方向への脅威の拡散を阻止し、アプリケーションセキュリティサービス、脅威防御、インテリジェンスサービスからなる包括的なスイートを提供することで、最新のコンテンツ媒介型脅威からネットワークを保護します。Juniper Networks Advanced Threat Prevention (ATP) Cloud を介した統合脅威インテリジェンスにより、自動保護を活用したコマンドアンドコントロール (C&C) ソリューションに対する適応型脅威保護を提供します。この統合では、Juniper Threat Labs と共同開発した高度な AI 技術を使用しており、非常に高い精度で、既知の悪用、スパイウェア、マルウェア、ゼロデイ脅威を検出し、実施するのに役立ちます。

SRX1500 では、ゼロタッチディプロイメント、オーケストレーション用の Python スクリプト、運用管理用のイベントスクリプトをサポートする自動化機能により、機動的な SecOps を実現できます。

SRX1500 は、エンタープライズとサービスプロバイダの両方に、完全に自動化された SD-WAN を提供しています。ゼロタッチプロビジョニング (ZTP) 機能により、初期導入および継続的な管理における支社/拠点のネットワーク接続が大幅に簡素化されます。SRX1500 は高性能かつ拡張性に優れているため VPN ハブとして機能し、さまざまな SD-WAN トポロジーでは VPN 接続/セキュアなオーバーレイ接続を終端します。

SRX1500 ファイアウォールは、実証済みのキャリアハードニングネットワーク OS として世界のトップ 100 サービスプロバイダネットワークを支えるジュニパーネットワークス Junos® オペレーティングシステムを搭載しています。厳格にテストされた、キャリアクラスのルーティング機能 (IPv4/IPv6、OSPF、BGP、マルチキャスト) は、世界中で 15 年以上にわたる導入実績があります。

Juniper Security Director Cloud

Security Director Cloud は、単一の UI で提供されるジュニパーのシンプルかつシームレスな管理エクスペリエンスであり、お客様の現在の導入を将来のアーキテクチャ展開に結び付けます。

Juniper Connected Security 戦略は管理を中心としたもので、企業はネットワーク上のあらゆる接続ポイントを保護してユーザー、データ、およびインフラストラクチャを保護することができます。

企業は、オンプレミス、クラウドベース、クラウド配信、ハイブリッドなどのあらゆる環境全体にわたって、一貫したセキュリティポリシーでアーキテクチャを保護し、エッジからデータセンター、アプリケーションやマイクロサービスにいたるまでのネットワークのすべての部分にゼロトラストを拡大することができます。Security Director Cloud では、企業は途切れることのない可視性、ポリシー構成、管理、収集した脅威インテリジェンスをすべて 1 か所で実現できます。

ジュニパーは、お客様が移行のどの段階にいるのであれ要件を満たして、既存の投資を活用できるようにサポートし、Security Director Cloud で移行を自動化することで、お客様のビジネスに最適なペースで、希望するアーキテクチャに移行できるようにします。

Juniper Secure Edge

Juniper Secure Edge は、必要とされている高速で、信頼性の高いセキュアなアクセスで、あらゆる場所にいる従業員を保護します。FWaaS、SWG、DLP を備えた CASB、ZTNA、Advanced Threat Protection を含むフルスタックの SSE 機能を提供し、Web、SaaS、オンプレミスアプリケーションへのアクセスを保護して、ユーザーがどこにいてもセキュリティを提供します。ジュニパーはお客様の現状を把握して、今あるものを活用し、ゼロトラストの取り組みをクラウド配信型のアーキテクチャに拡張することで、多額のコストをかけたり運用チームに支障をきたすことなく、お客様の望む方向へと導きます。

Security Director Cloud によって管理される Juniper Secure Edge では、単一のポリシーフレームワークを採用しており、セキュリティポリシーを一度作成すれば、ユーザー、デバイス、データがどこにいても同じポリシーを適用することができます。お客様はクラウド配信セキュリティを採用する際に、最初から始める必要はありません。3 回のクリックで完了するウィザードで、既存のキャンパスエッジポリシーを活用して、SSE ポリシーへと簡単に交換することができます。導入モデルに関係なく、単一のポリシーフレームワークを使用するため、Secure Edge では、従来の導入からクラウド配信モデルへと、わずか数回のクリックで既存のセキュリティポリシーを適用することができ、誤設定やリスクを軽減することができます。

保護する対象がリモートユーザーであれ、キャンパスおよび支社/拠点、プライベートクラウド、パブリッククラウド、またはハイブリッドクラウドデータセンターであれ、ジュニパーはすべてのアーキテクチャに統一された管理と途切れることのない可視化を提供します。これにより、運用チームは、現在の投資と SASE を含む将来のアーキテクチャの目標へと簡単かつ効果的に結びつけることができます。お客様は、オンプレミスであれ、クラウド内またはクラウドからであれ、どこからでもセキュリティを管理することができ、あらゆる場所にいるユーザー、デバイス、データに適用されるセキュリティポリシーを、単一の UI から管理することができます。

ユーザーには、必要なデータやリソースへの高速で、信頼性の高いセキュアなアクセスを提供することで、優れたユーザーエクスペリエンスを確保できます。IT セキュリティチームは、既存の投資を活用しながら、ネットワーク全体をシームレスに可視化することができるようになり、自分のペースでクラウド配信アーキテクチャへと移行できます。

Juniper Secure Edge からあらゆる場所のユーザー、デバイス、データに一貫したセキュリティポリシーが提供され、ルールセット

をコピーしたり再作成したりする必要がありません。クラウド配信アプリケーション制御、侵入防御、コンテンツおよび Web フィルタリング、効果的な脅威防衛も、可視化やセキュリティの施行を損なうことなく簡単に導入できます。

ジュニパーは、過去 4 年間にわたって、複数のサードパーティ試験で、市場で最も効果的なセキュリティ技術として検証され続け

特長とメリット

ビジネス要件	機能/ソリューション	SRX1500 のメリット
高性能	最大 9Gbps のファイアウォールパフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> エンタープライズの大規模な支社/拠点およびキャンパスへの導入に最適 規模と機能に対する将来のニーズに対応
高品質のエンドユーザーエクスペリエンス	アプリケーションの可視化と制御	<ul style="list-style-type: none"> Juniper Threat Labs から提供される継続的なアプリケーションの更新 アプリケーションおよびユーザーロールに基づいてトラフィックを制御し、優先度を設定 SSL 暗号化トラフィック内のアプリケーションを検査して検出
脅威防御	IPS、アンチウイルス、アンチスパム、強化された Web フィルタリング、Juniper Advanced Threat Prevention Cloud、暗号化されたトラフィックのインサイト、脅威インテリジェンスフィード、ジュニパーの ATP Appliance	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムで IPS シグネチャを更新し、悪用や脅威から保護 業界最先端のアンチウイルスおよび URL フィルタリングを実装 すべての運用インテリジェンスフィード用に単一のポイントを提供するオープンな脅威インテリジェンスプラットフォームを提供 ゼロデイ攻撃から保護 完全な TLS/SSL 復号化を実行することで大きな負担をかけることなく、暗号化によって失われた可視性を復元
プロ仕様のネットワークサービス	ルーティング、スイッチング、セキュアワイヤ	<ul style="list-style-type: none"> キャリアクラスの高度なルーティング、QoS (Quality of Service)、サービスをサポート 柔軟な導入モード (L1/L2/L3)
優れた安全性	IPsec VPN、リモートアクセス/SSL VPN、セキュアブート	<ul style="list-style-type: none"> ハイパフォーマンスな IPsec VPN に専用の暗号化エンジンを提供 自動 VPN およびグループ VPN により、大規模な VPN 導入を簡素化 セキュアで柔軟なリモートアクセス SSL VPN と Juniper Secure Connect を提供 ハードウェアで実行するバイナリをセキュアブートで検証
高い信頼性	シャーシクラスタ、冗長電源	<ul style="list-style-type: none"> ステータス構成と状態の同期を提供 アクティブ/アクティブおよびアクティブ/バックアップの導入シナリオをサポート デュアル電源ユニット、冗長ファンを備えた高可用性ハードウェアを提供
管理および拡張が容易	オンボックス GUI、Security Director、SecurityDirector Cloud	<ul style="list-style-type: none"> 自動プロビジョニング、ファイアウォールポリシー管理、ネットワークアドレス変換 (NAT)、IPsec VPN 導入のための集中管理が可能 シンプルで使いやすい、ローカル管理用オンボックス GUI を搭載
TCO の削減	Junos OS	<ul style="list-style-type: none"> 1 つのデバイスにルーティング、スイッチング、セキュリティを統合 Junos OS の自動化機能により運用コストを削減

• SSL インспекション



SRX1500

SRX1500 ファイアウォールの仕様

ソフトウェアの仕様

ファイアウォールサービス

- ステータスフルファイアウォール検査
- ゾーンベースのファイアウォール
- スクリーニングおよび DDoS (分散型サービス拒否) からの保護
- 異常なプロトコルおよびトラフィックからの保護
- Pulse Unified Access Control (UAC) との統合
- Aruba Clear Pass Policy Manager との統合
- ユーザーロールベースのファイアウォール

NAT (ネットワークアドレス変換)

- ソース NAT と PAT (ポートアドレス変換)
- 双方向 1:1 スタティック NAT
- デイステイネーション NAT と PAT
- 永続的 NAT
- IPv6 アドレス変換

VPN 機能

- トンネル : サイトツーサイト、ハブアンドスポーク、動的エンドポイント、AutoVPN、ADVPN、グループ VPN (IPv4/IPv6/デュアルスタック)
- Juniper Secure Connect : リモートアクセス/SSL VPN
- 設定ペイロード : ○

- IKE 暗号化アルゴリズム：プライム、DES-CBC、3DES-CBC、AEC-CBC、AES-GCM、SuiteB
- IKE 認証アルゴリズム：MD5、SHA-1、SHA-128、SHA-256、SHA-384
- 認証：事前共有カギおよび公開カギ基盤 (PKI) (X.509)
- IPsec (インターネットプロトコルセキュリティ)：認証ヘッダー (AH) /カプセル化セキュリティペイロード (ESP) プロトコル
- IPsec 認証アルゴリズム：hmac-md5、hmac-sha-196
- IPsec 暗号化アルゴリズム：プライム、DES-CBC、3DES-CBC、AEC-CBC、AES-GCM、SuiteB
- 完全転送機密保持、アンチリプレイ
- Internet Key Exchange：IKEv1、IKEv2
- 監視：スタンダードベースのデッドピア検出、VPN モニタリング
- GRE over IPsec、IP-in-IP、MPLS

高可用性機能

- Virtual Router Redundancy Protocol (VRRP)
- ステータフルな高可用性
 - デュアルボックスクラスタリング
 - アクティブ/パッシブ
 - アクティブ/アクティブ
 - 設定同期
 - ファイアウォールセッション同期
 - デバイス/リンク検出
 - ISSU (インサービスマソフトウェアアップグレード)
- IP 監視によるルートとインターフェイスのフェイルオーバー

アプリケーションセキュリティ サービス¹

- アプリケーションの可視化と制御
- アプリケーション QoS
- 高度なアプリケーションポリシーベースのルーティング (APBR)
- Application Quality of Experience (AppQoE)
- アプリケーションベースのマルチパス ルーティング

脅威防御サービスおよびインテリジェントサービス¹

- 侵入防御
- アンチウイルス
- アンチスパム
- カテゴリー/レピュテーションベースの URL フィルタリング
- ボットネット (コマンド&コントロール) からの保護
- GeoIP をベースにした適応型ポリシー適用
- Juniper Advanced Threat Prevention、ゼロデイ攻撃を検出しブロックするクラウドベースの SaaS 製品

- ゼロデイ攻撃を検知してブロックする Juniper ATP Appliance (オンプレミスの高度な分散型脅威防御ソリューション)
- 適応型脅威プロファイリング
- 暗号化されたトラフィックのインサイト
- 脅威インテリジェンスを提供する SecIntel

¹ 高度なセキュリティサブスクリプションライセンスとして提供

ルーティングプロトコル

- IPv4、IPv6
- スタティックルート
- RIP v1/v2
- OSPF/OSPF v3
- BGP (ルートリフレクタ使用時)
- IS-IS
- マルチキャスト：IGMP (インターネットグループ管理プロトコル) v1 / v2、PIM (プロトコルに依存しないマルチキャスト) スパースモード (SM) /デンスモード (DM) / SSM (ソース固有のマルチキャスト)、SDP (セッション記述プロトコル)、DVMRP (ディスタンスベクトルマルチキャストルーティングプロトコル)、MSDP (マルチキャストソース検出プロトコル)、RPF (リバースパスフォワーディング)
- カプセル化：VLAN、PPPoE (Point-to-Point Protocol over Ethernet)
- 仮想ルーター
- ポリシーベースルーティング、ソースベースルーティング
- ECMP (等価コストマルチパス)

QoS 機能

- 802.1p、DSCP (DiffServ コードポイント)、EXP のサポート
- VLAN、DLCI (データリンクコネクション識別)、インターフェイス、バンドル、またはマルチフィールドフィルタに基づいた分類
- マーキング、ポリシング、およびシェーピング
- 分類およびスケジューリング
- WRED (Weighted Random Early Detection)
- 保証帯域幅および最大帯域幅
- ingress トラフィックのポリシング
- 仮想チャネル
- 階層型のシェーピングおよびポリシング

スイッチング機能

- ASIC ベースのレイヤー 2 転送
- MAC アドレス学習

- VLAN アドレッシングおよび IRB (Integrated Routing and Bridging) のサポート
- リンクアグリゲーションおよび LACP
- LLDP および LLDP-MED
- STP、RSTP、MSTP
- MVRP
- 802.1X 認証

ネットワークサービス

- DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) クライアント/サーバー/リレー
- DNS (Domain Name System) プロキシ、DDNS (dynamic DNS)
- ジュニパーリアルタイムパフォーマンス監視 (RPM) および IP 監視
- フロー監視 (J-Flow)
- BFD (Bidirectional Forwarding Detection)
- TWAMP (Two-Way Active Measurement Protocol)
- IEEE 802.3ah LFM (Link Fault Management)
- IEEE 802.1ag CFM (Connectivity Fault Management)

高度なルーティングサービス

- パケットモード
- MPLS (RSVP、LDP)
- CCC (サーキットクロスコネクト)、TCC (トランスレーショナルクロスコネクト)
- L2/L2 MPLS VPN、pseudowires
- VPLS (仮想プライベート LAN サービス)、NG-MVPN (次世代マルチキャスト VPN)
- MPLS トラフィックエンジニアリングおよび MPLS 高速再ルート

管理、自動化、ログ記録、通知

- SSH、Telnet、SNMP
- スマートイメージダウンロード
- Juniper CLI および Web UI
- Juniper Networks Junos Space および Security Director
- Python
- Junos OS イベント、コミット、および OP スクリプト
- アプリケーションおよび帯域幅の使用状況レポート
- 自動インストール
- デバッグおよびトラブルシューティングツール

ハードウェアの仕様

仕様	SRX1500
接続性	
搭載ポート総数	1 GbE x 16、10 GbE x 4
オンボード RJ-45 ポート	1GbE x 12
オンボード SFP (Small Form-factor Pluggable) トランシーバポート	1GbE x 4
オンボード SFP+ ポート	10GbE x 4
OOB (アウトオブバンド) 管理用ポート	1GbE x 1
専用の HA (高可用性) ポート数	1GbE x 1 (SFP)
PIM スロット	2
コンソール (RJ-45 + miniUSB)	1
USB 2.0 ポート (タイプ A)	1
メモリおよびストレージ	
システムメモリ (RAM)	16 GB
プライマリブートストレージ (mSATA)	16 GB
セカンダリストレージ (SSD)	100GB
寸法と電源	
筐体	1U
サイズ (幅 x 高さ x 奥行き)	43.9 x 4.44 x 46.22 cm (17.28 x 1.75 x 18.2 インチ)
重量 (デバイスおよび電源ユニット)	7.30kg (16.1 ポンド)
冗長構成の電源ユニット	1+1
電源	AC/DC (外部)
平均消費電力	150 W
平均発熱量	512 BTU/時
最大消費電力	2.5A (AC PSU 用) ; 6.2A (DC PSU 用)
最大突入電流	1AC サイクルごとに 50A
騒音レベル	66.5dBA
気流/冷却	フロントツーバック
動作時温度	0~40°C (32~104°F)
非動作時温度	-20~70°C (4~158°F)
動作時湿度	10%~90% 結露なし
非動作時湿度	5%~95% 結露なし
平均故障間隔 (MTBF)	9.78 年 (85,787 時間)
FCC 分類	クラス A
RoHS コンプライアンス	RoHS 2
FIPS 140-2	レベル 2 (Junos 19.2)
パフォーマンスと拡張性	
ルーティング/ファイアウォール (IMIX パケット サイズ) Gbps ²	4.8
ルーティング/ファイアウォール (1,518B パケットサイズ) Gbps ²	9.2
IPsec VPN (IMIX パケットサイズ) Gbps ²	1.3
Gbps 内の IPsec VPN (1400B パケットサイズ) ²	4.5
アプリケーションの可視化と制御 (Gbps) ³	7.9
推奨 IPS (Gbps) ³	3.3
次世代ファイアウォール (Gbps) ⁴	2.1
セキュア Web アクセスファイアウォール (Gbps) ⁵	1.6
ルーティングテーブルのサイズ (RIB/FIB) (IPv4)	200 万/100 万
最大同時セッション数 (IPv4 または IPv6)	2,000,000
最大セキュリティポリシー数	16,000
接続数/秒	90,000

仕様	SRX1500
NAT ルール数	8,000
メディアアクセス制御 (MAC) テーブルのサイズ	64,000 (スタンドアロンモード)
IPsec VPN トンネル	2,000
リモートアクセス/SSL VPN (同時) ユーザー数	2,000
GRE トンネル	2,048
最大セキュリティゾーン数	512
最大仮想ルーター数	512
最大 VLAN 数	3,900

UDP パケットと RFC2544 のテスト方法に基づくパフォーマンスの数値

44KB のトランザクションサイズでの HTTP トラフィックに基づくパフォーマンス数値

⁴次世代ファイアウォールのパフォーマンスは、ファイアウォール、アプリケーションセキュリティおよび IPS を有効にした状態で、64KB トランザクションを使用して測定したものです。

⁵セキニヤ Web アクセスファイアウォールのパフォーマンスは、ファイアウォール、アプリケーションセキュリティ、IPS、Secintel および URL フィルタリングを有効にした状態で、64KB トランザクションを使用して測定したものです。

ジュニパーネットワークスについて

ジュニパーネットワークスは、ネットワーク運用を劇的に簡素化し、エンドユーザーに最上のエクスペリエンスを提供することに注力しています。業界をリードするインサイト、[自動化](#)、[セキュリティ](#)、[AI](#) を提供する当社のソリューションは、ビジネスで真の成果をもたらします。つながりを強めることにより、人々の絆がより深まり、幸福、持続可能性、平等という世界最大の課題を解決できるとジュニパーは確信しています。

ジュニパーネットワークスのサービスとサポート

ジュニパーネットワークスは、高性能サービス市場をリードし、サービス導入の高速化、拡張、最適化を目指しています。当社のサービスをご利用いただくと、コストを削減し、リスクを最小限に抑えながら、業務効率を最大限に高めることが可能となり、早期にネットワーク投資の価値を高めることができます。ジュニパーネットワークスは、必要なレベルのパフォーマンス、信頼性、および可用性を維持するようにネットワークを最適化することで、運用効率を最大化します。詳細については、<https://www.juniper.net/jp/ja/products.html> をご覧ください。

注文情報

ジュニパーネットワークス SRX シリーズのファイアウォールのご注文や、ソフトウェアライセンス情報へのアクセスをご希望の場合は、ご購入方法ページ (<https://www.juniper.net/jp/ja/how-to-buy/form.html>) をご覧ください。

Corporate and Sales Headquarters

Juniper Networks, Inc.
1133 Innovation Way
Sunnyvale, CA 94089 USA

電話番号 : 888.JUNIPER (888.586.4737)

または +1.408.745.2000

www.juniper.net

APAC and EMEA Headquarters

日本, 東京本社
ジュニパーネットワークス株式会社
〒163-1445 東京都新宿区西新宿 3-20-2

東京オペラシティタワー 45 階

電話番号 : 03-5333-7400

FAX : 03-5333-7401

www.juniper.net/jp/ja/



Copyright 2022 Juniper Networks, Inc. All rights reserved. Juniper Networks, Juniper Networks ロゴ、Juniper、Junos は、米国およびその他の国における Juniper Networks, Inc. の登録商標です。その他すべての商標、サービスマーク、登録商標、登録サービスマークは、各所有者に所有権があります。ジュニパーネットワークスは、本資料の記載内容に誤りがあった場合、一切責任を負いません。ジュニパーネットワークスは、本発行物を予告なく変更、修正、転載、または改訂する権利を有します。